

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

G. ガリラヤへの第二の旅

2. イエスが初めてユダヤ教指導者から公に拒絶される (具体的な奇跡その12)

デイリー・ジーザス・ニュース #088

基本テキスト: MT 12.22-37 (並行テキスト: マルコ3.22-30)

『そして群衆は再び集まり、食事もできないほどになった。』

22それから、人々は悪霊に取りつかれて目も見えず口もきけない人をイエスのもとに連れて来た。イエスは彼を癒して、目も見え、話せるようにされた。23人々は皆驚いて、「もしかしてこの人はダビデの子なのだろうか」と言った。

24ところが、エルサレムから下って来たパリサイ人たちと律法学者たちは、これを聞いて言った。「この男が悪霊を追い出しているのは、悪霊の頭ベルゼブルのせいに違いない。」

25イエスは彼らの考えを知つて言われた。

『「サタンはどうしてサタンを追い出すことができるのでしょうか？マタイ 内部で分裂している王国は滅び、内部で分裂している町や家は立ち行かなくなります。26サタンがサタンを追い出すなら、サタン自身も内部で分裂することになります。それでは、どうしてその王国が立ち行かないでしょう。27もし私がベルゼブルによって悪霊を追い出しているのなら、あなたがたの民はだれによって追い出しているのですか。そうすれば、彼らがあなたがたを裁く者となるでしょう。28しかし、私が神の靈によって悪霊を追い出しているのですから、神の国はあなたがたのところに近づいているのです。』

29また、強い人の家に入ってその財産を奪い取るには、まずその人を縛つてからでないと、どうしてできるだろうか。そうすれば、その人の家を略奪することができる。

30「わたしと共にいない者はわたしに敵対し、わたしと共に集めない者は散らすのです。31だから、あなたがたに言います。どんな罪や中傷も赦されますが、³²ホーリー 32人の子に逆らって何かを言う者は許されるが、聖霊に逆らって何かを言う者は、この世でも後の世でも許されない。³³は永遠の罪を犯しています。』

イエスがこう言われたのは、彼らが『彼は汚れた靈に取りつかれている』と言っていたからである。』

33マタイ 22:13 「木を良くすれば、その実も良くなり、木を悪くすれば、その実も悪くなる。木はその実でわかるからだ。34毒蛇の子らよ。あなたたち悪い者は、どうして良いことを言えようか。口は心に満ちていることを語るからだ。35善人は自分のうちに蓄えた良いものの中から良いものを取り出し、悪人は自分のうちに蓄えた悪いものの中から悪いものを取り出す。』

36しかし、わたしはあなたがたに言います。裁きの日には、すべての人が自分の語ったすべてのむなし言葉について、言い開きをしなければなりません。37なぜなら、あなたがたは、自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪に定められるからです。』

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク=^M、ルカ=^L、ヨハネ=^J、使徒行伝=^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています。** 旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	2回ツアー、ガリラヤのどこか
タイムライン	5月（16番目の月）
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	G. 第2回ガリラヤ巡礼
タイトル	2. イエスは奇跡12を起こし、初めて公に拒絶される

コメント：

イエスの二度目のガリラヤ巡礼は、イエスの奇跡の中でも特に注目すべきものの一つ（12）から始まりました。それは悪魔祓い、盲目の治癒、そして口がきけなくなるという三重の奇跡でした。目が見えなくなり、話すこともできず、さらに悪霊に苦しめられるという恐怖は想像を絶するものです。これらの条件はどれも人生を破滅させるには十分でしたが、三重になるとどうなるでしょうか。イエスの慈悲深い愛は、彼を即座に解放するためにイエスを動かしました。

これほど輝かしい奇跡が、悪魔崇拜者という非難のきっかけになるとは、想像もつきません。イエスの二度目の旅は、ユダヤ人指導者たちによる最初の公然たる拒絶から始まりました。指導者の中には、イエスに対する判決を下すためにエルサレムからやって来た者もいました。指導者たちは、イエス自身が悪霊に取り憑かれており、それゆえにサタンの力で悪霊を追い出しているのだ、と非難しました。

国の指導者たちによるイエスへのこの最も強い公然たる反対は、画期的な出来事でした。これは抵抗を増大させ、やがて民衆全体からの反対へと繋がりました。数日後、イエスの家族が彼を連れ戻しにやって来ます。彼らはイエスが正気を失ったと考えていたからです。洗礼者ヨハネの質問、そして社会の上層部から下層部まで多くの人々からの反対は、イエスがメシアに対する人々の期待やイメージとどれほどかけ離れていたかを物語っています。変化を求めることと、人々の期待に応えないことは、どんな指導者にとっても影響力を失わせる二刀流の魚雷です。イエスでさえ、これらの問題に直面しました。

主はパリサイ人たちに、彼らの告発の論理的矛盾を指摘して答えられました。もしサタンが自分の力で、ある人を通して別の人におけるサタンの働きを破壊しているのであれば、サタンの王国は必ず滅びるでしょう。告発者は自らを滅ぼすのです。さらに、パリサイ人は時折悪魔祓いを行っていましたが、非常に困難を伴っていました。彼らはイエスのようなサタンに対する権威を持っておらず、悪霊を追い出すのは通常、

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

長期にわたる激しい戦いでしたが、それでも時には成功していました。イエスがサタンの力によって悪霊を追い出したのであれば、パリサイ人たちもそうしていたことになります。パリサイ人々は本当に自分たちについてそう信じていたのでしょうか。では、どうしてイエスについてもそう考えられたのでしょうか。

「聖霊に対する冒涜であり、永遠の罪」と呼びました。これはどういう意味だったのでしょうか。

聖霊との関係を決定づけるのは、イエスに対する私たちの態度です。イエスを救い主であり主であると拒絶することは、イエスが主であることを私たちに確信させる聖霊を冒涜することになります。

これらのユダヤ人指導者たちは既にイエスを憎んでおり、密かにイエスを殺そうと決意していました。イエスは聖霊ではなくサタンに取り憑かれていると公言した時、彼らは聖霊の働きに対してあまりにも心を閉ざし、決して悔い改めようとしないことを明らかにしました。

イエスは聖霊に満たされ、聖霊の力によって悪霊を追い出されました（12:28）。聖霊はイエスの言行すべてにおいて、イエスの内に、そしてイエスを通して働きました。また、未信者的心にも恵み深く働きかけ、イエスが誰であるかを私たちに確信させてくださるのも聖霊です。実際、聖霊の力によってのみ、人は心からイエスを「主」と呼ぶことができるのです（コリスト人への手紙第一 12:3）。ですから、聖霊はイエスに悪霊を追い出す力を与えたように、私たちにも真に悔い改め、イエスを信じる力を与えてくださるのです。

聖霊の働きは、イエスにある真理へと私たちを指し示すことです。ですから、イエスを拒むことは、イエスを信じるように私たちを誘う聖霊を拒むことなのです。さらに一步進めて言えば、もし人が聖霊の働きに対してあまりにも心を閉ざし、イエスの行動を聖霊ではなくサタンの導きと力によるものと解釈してしまうなら、その人は二度と立ち直ることのできないほど心の硬さに達しているのです。

だからこそ、イエスは聖霊への冒涜を「永遠の罪」と呼んだのです。どんな罪でも、それを罪として認め、赦しを求めるなら赦されます。しかし、聖霊への冒涜とは、冒涜者が聖霊の働きを拒絶した罪を決して認めないことを意味します。これが永遠の罪となるのは、神が赦すことを望まないからではなく、罪人が赦しを求めるのを拒むからです。

パリサイ人は聖霊に対して罪を犯しており、決して赦しを受けることはありませんでした。イエスが、これほどまでに自分を憎む人々と心を通わせるために、たとえ話を用いなければならなかつたのも不思議ではありません。

応用：

クリスチヤンは時折、聖霊を冒涜してしまったのではないかと心配することがあります。聖霊への冒涜とは、救い主であり主であるキリストを拒絶することであることを理解するのは、勇気づけられることです。

イエスを信じる者は、聖霊を冒涜する罪を犯すことはできません。クリスチヤンは聖霊に抵抗したり、悲しんだり、反抗したりすることさえあります。これらはすべて聖霊に対するひどい態度であり、私たちは悔い改めるべきものです。しかし、それらは冒涜にはなりません。クリスチヤンは、イエスが聖霊ではなくサタンに支配されていると信じることは決してなく、キリストにおける神を悪魔と混同することもできません。まさにそれこそが、イエスがここで語っていた冒涜なのです。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

あなたと聖霊との関係はどうですか？あなたは…

彼を無視する？

彼に抵抗し、

それとも神に満たされているのでしょうか？